

令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

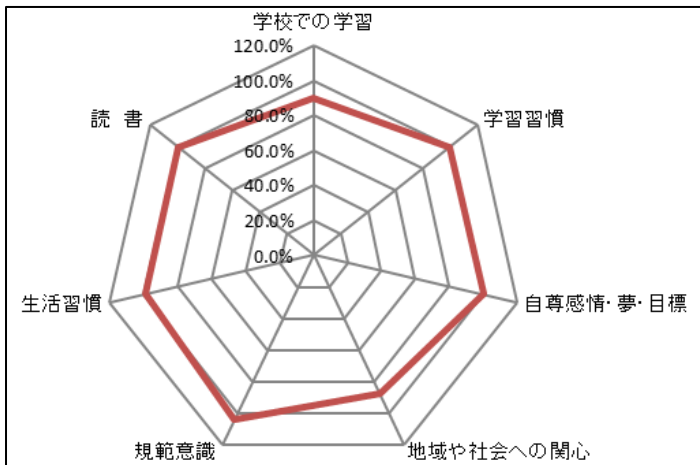
文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

学力調査はそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つだと考えます。本校では調査結果も踏まえ、今後も学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	平均正答率は全国を下回っており、特に「書くこと」において課題が見られる。記述式の問題において無回答率が高く、問題に向き合おうとする姿勢を育てていく必要がある。 言語についての知識・理解・技能では、全国の平均正答率と同程度である。	下回っている
算数	平均正答率は全国を下回っており、その差は国語よりも大きい。 「量と測定」領域の正答率が特に低く、問題を具体的な場面としてとらえきれていない。一方、「数と計算」領域は比較的正答率が高く、計算の仕方は理解できている。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

○学校の授業以外に、普段1日当たりに勉強をする時間は全国に比べて多いが、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合は低い。自主学習の推進等、家庭学習の質の向上を働きかけたい。

○将来の夢や目標をもっている児童や、人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合が高い。道徳科や子どもつながりプログラムの学習を通して、児童の自尊感情がより一層高まる取組を継続していく。

○朝食摂取率が年々向上し、ほぼ全国と同程度まで高まってきた。食育の取組をさらに進めて、心身ともに健康な児童の育成に努めていく。自主的に学習する態度の育成とあわせて、家庭との連携を図る。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- 1時間の学習の中で、「書く活動」「話し合う活動」を計画的に設定し、一人一人の児童が考えをもち、その考えを深めたり広げたりすることができるように授業改善を図る。また、「振り返り」を重視し、考えの深化や変容を児童自身が自覚できるようにする。
- 学力定着サポートシステムの診断問題を通して児童の実態を定期的に把握し、課題点の克服に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭と連携して児童の主体的な学習態度を育成する。
- 食育の取組を充実させ、朝食摂取率を高めるとともに、規則正しい生活習慣を身に付けさせていく。
- 地域の施設やまちづくり協議会等と連携し、児童の地域行事への参加や地域ぐるみでの教育活動の推進に努める。